

# 土曜 ライフ・楽しむ

## ウイルスの爆弾「終息」願う

# わたし色

生活情報誌「悠悠と」  
編集長・真鍋康利さん



20年余り前、情報誌「悠悠と」の創刊時に、カタカナ語でしか表せない言葉を除いてカタカナ語は極力、使わないと決めました。

当時、何でもかんでも横文字にするのはやっていたように思います。そこで、別に「ことば辞典」というコーナーを設けてその説明や背景などを紹介しました。カタカナ語は、インターネットや携帯電話が身近になるとともに増えてきた印象です。

また、このコーナーでは、日本語でも専門的で分かりにくい言葉をかみ砕いたり、若者言葉を取り上げたりもしました。これはシニアには好評でしたが、今読み返すとその時代に新しいと思った言葉もずいぶん古くなり、ダサイなあと思うものもあります。

新型コロナウイルスの猛威がとどまるどころを知りません。これに関する宣言や報道の中で、パンデミック、ロックダウン、オーバーシュート、ソーシャルディスタンスなど、耳慣れない言葉が多く使われています。

世界中が同時に見舞われている災いなので、カタカナ語が多く使われることはやむを得ないことだと思います。しかし、その内容がよく伝わらないまま、おどろおどろしい響きに右往左往することもあります。できれば日本語でう

まく表現できればいいなとも思っています。

中でも「クラスター」が最も強く印象に残りました。「房・集団・群れ」という意味の単語で、いろいろな分野で使われていますが、疫学の世界では感染症における感染者集団のことだそうです。気づいた時にはすでに遅く、周りの多くに感染が広がるので大変恐ろしいものです。

この言葉を聞くと「クラスター爆弾」を思い出します。容器となる親爆弾の中に大量の子爆弾を搭載し、親爆弾が空中で爆発すると、広い

範囲に子爆弾がばらまかれ、兵士はもとより一般の人々をも殺傷する恐ろしい兵器です。

子爆弾は戦車や建物、硬い地面に当たると爆発しますが、やわらかい畑や沼地などに落ちると不発のままに残ります。小さくきれいな色をしていることもあって子どもが手にすることもあって、長く害を及ぼすことが危惧されています。日本語では、爆弾を集めて束にした爆弾だから「集束爆弾」とも言われるそうですが、「終息」「収束」に続いてここにも「しゅろそく」が出てきます。

今後、ワクチンなどが目覚ましい進歩を遂げて新型コロナウイルスが「収束」を迎えたとしても、クラスター爆弾の危険極まりない不発弾のように長く残らないこと、すなわち「終息」が願いです。